

「第6回第2次千葉市学校適正配置検討委員会議事録」

1 日時 平成19年3月9日(金曜日)14時00分～15時30分

2 会場 千葉市教育委員会委員会室

- 3 会次第 (1)開会
(2)教育委員会挨拶
(3)委員長挨拶
(4)協議
ア 答申「千葉市学校適正配置の基本的考え方」について
イ 教育委員会への答申について
ウ その他
(5)閉会

4 出席者

- ・委員
千葉大学教育学部長 明石要一 委員
千葉大学教育学部助教授 貞廣斎子 委員
社団法人千葉青年会議所 直前理事長 秋元裕子 委員
千葉市PTA連絡協議会副会長 大和久清子 委員
千葉市青少年育成委員会会長 緑が丘中学校区青少年育成委員会会長 小川博子 委員
千葉市子ども会育成連絡会会長 田原洋子 委員
千葉市教育研究会事務局長 升川光博 委員
千葉市小学校長会副会長 市川百合子 委員
千葉市中学校長会副会長 鶴飼憲雄 委員
若葉区町内自治会連絡協議会 会長 安達満夫 委員
花見川区花見川団地自治会会長 黒田實 委員(欠席)
中央区町内自治会連絡協議会会長 佐藤勇吉 委員
緑区町内自治会連絡協議会会長 豊田洋祐 委員
稲毛区町内自治会連絡協議会会長 長井巧 委員
美浜区千葉幸町団地自治会会長 長岡正明 委員
美浜区磯辺自治会会長 吉岡靖之 委員
- ・千葉市教育委員会
教育長 飯森幸弘 教育総務部長 大野湊
企画課長 山崎正義、企画課主幹 小池公夫、
企画課主査 加茂進、企画課主査補 伊原浩昭

5 協議の概要

- (1) 答申「千葉市学校適正配置の基本的考え方」について
事務局資料説明
ア 前回の検討委員会や第6回ワーキングの修正事項については、答申に反映した。
イ 各検討委員からの答申案の確認状況は、内容について変更なしであった
ウ 14日は、答申、答申骨子、答申説明資料の3部を公表する。
明石委員長から
ア 本日の最終検討委員会で答申の内容が確定された
イ 答申を受けて教育委員会が基本方針を策定することになる
ウ 来年度から、基本方針の策定と地元への説明と話し合いが始まる
- (2) 教育委員会への答申について
ア 14日の13時から委員会室で答申、引き続きレクチャールームで内容説明
イ 答申は、参加いただける委員で行う。内容説明は委員長が行う。
- (3) その他(次年度からのスケジュールについて)
・今後、早い時期に基本方針を定め、順次学校適正配置に取り組んでいく

6 教育長あいさつ

- 飯森教育長 ・これまで6回にわたる熱心なご審議に感謝申し上げます。
・今後は、14日に予定されている答申を踏まえ、取り組んで参りたい。

7 委員長あいさつ

- 明石委員長 ・教育再生会議の動きから、学校適正配置に関連する話を紹介する。
・教育再生会議では、学校を地域総ぐるみで支えるとしているが、答申にあるよう地域のまとまりとの関わりが重要である。
・答申で学校の地域格差に触れているが、適正に配置されていないと放課後の世界に格差が大きくなる。適正配置と放課後のあり方はこれからも考えていきたい。
・18歳までに、子どもをひとり立ちさせる教育が話題となっているが、答申の具体的な取り組みにあるように、新しい学校の校歌を作るなど、子どもたち自身が参画する学校づくりが重要である。
・答申案については、各委員に事前にご覧頂いている。確認をしてまとめとしたい。

8 協議

明石委員長 (1) 答申「千葉市学校適正配置の基本的考え方」について協議に入りたい。

- ・まず事務局より資料説明がある。

事務局説明 <答申「千葉市学校適正配置の基本的考え方」について>

- ・前回の検討委員会および、第6回のワーキングで修正意見のあった部分は、事務局で修正した。修正箇所は、一覧表にまとめ、各検討委員に確認いただいた。
- ・また、答申案は先週、各検討委員へ送った。各委員から、表記の統一や、文章表現の注意点などご指摘頂き、修正した。修正したところは各委員に電話連絡し、承認いただいた。
- ・答申内容については変更なしであった。
- ・14日の水曜日は、答申、答申骨子、答申概要説明資料の3部を公表する。

明石委員長説明 <答申「千葉市学校適正配置の基本的考え方」における確認事項について>

- ・委員長から、ワーキング部会で作成した答申案の補足説明をする。
- ・次の6点について確認する。
ア まず基本的考え方(案)は、検討委員会として答申することを確認する。
イ 学校適正配置の必要性における3つの観点、「公立学校の教育の充実」、「教育環境の公平性」、「教育資源の再分配と有効活用」が答申の基本となっている。
ウ 学校適正配置については、学校規模と学校配置を一体のものとして検討してきた。
エ 取り組み方では検討が必要な学校と、直線距離が2km・3kmの近接する学校を具体的に示した。いずれも基準に照らし、学校適正配置を検討する地域の例であり、決定ではない。統合だけではなく多様な方法がある。
オ 行政区と一致しない学校は多く、行政区や地域とのまとまりとの一致は、弾力的に考えることとする。
カ 今後は、答申を受けて教育委員会が基本方針を策定することになる。

明石委員長 ・これより、答申について意見を伺う。

長岡委員 ・答申に小中一貫校についての検討が提言されているが、小中一貫校は地域の学区に限定する必要がある。広域にすると地域のコミュニティーづくりができなくなる。

吉岡委員 ・先生の異動には、1校に何年というルールがあるのか。

- ・適正配置と離れる話題かもしれないが、1校にできるだけ長くいて頂きたい。

明石委員長 ・新卒の先生は3年いる。

田原委員 ・校長も少なくとも3年は必要。4年間いる校長先生や、元いた学校にもどって教

- 頭先生になった先生とは、地域と人間関係も良好である。
- 長岡委員 ・ 1年しか在職しない校長のあり方は好ましくない。以前在職した先生が教頭や校長でもどってこられると地域は歓迎し、親しみが増す。
- 吉岡委員 ・ 子どものためにも、先生には長くいて頂きたい。地域との関係も深まる。
- 明石委員長 ・ 浦安市で荒れた中学校へ、卒業生の校長や教頭を配置したり、習志野市で教頭であった先生を校長にした事例がある。
 ・ 地域へ繰り返し説明をすることが必要である。進め方には、だれが、いつ、どうやって説明するか示されていない。
- 田原委員 ・ 校長と教頭がいっしょに異動するのもやめていただきたい。
- 明石委員長 ・ 学校適正配置を進めるにあたっては、教員の配置もワンセットで考える必要がある。
- 貞廣委員 ・ 教員など人的配置については、答申の23ページに「一定期間は～努める」という表現で示されている。
- 升川委員 ・ 参考だが、京都市で特定地域の学校に12年間、同じ校長を配置した事例がある。
 ・ 花島小のように2校がいっしょになると、低学年は仲良く溶け込んでいるが、高学年はもとの学校の意識が強い場合がある。子どもへのカウンセリングや、担当の先生への配慮が必要となる。
- 明石委員長 ・ 統合は2つの文化の違う学校から人間が集まるので、計算上の数あわせだけではできない。子どものメンタル面については、非常勤も含めた対応を検討することになるだろう。
- 小川委員 ・ 統合での適正な教員配置を考える上で、教頭が複数いる学校についてどのような基準があるのか伺いたい。
- 田原委員 ・ 生徒指導の困難校や校長会会長の学校と伺っている。
- 鵜飼委員 ・ 教員の異動については、3年、7年という原則や、免許外教科担当がいらないような配置など、人事異動方針に基づいた、全市的な配置計画の中で行われていると認識している。
 ・ 教頭の複数配置についても、学校の実情に応じて配慮していると理解している。
- 明石委員長 ・ 答申について他に意見がないようなので、本答申案の内容を確定としてよろしいか。
- 各委員 ・ はい。
- 明石委員長 ・ 感謝申し上げます。答申については確定された。
 ア 本日の最終検討委員会をもって、答申の内容が確定されたことを確認する
 イ 14日の答申を受けて、今後、教育委員会には、早い時期に基本方針を策定していただくよう要望する。
 ウ 地域への説明について、合意形成に向けた十分な話し合いをお願いしたい。
- 明石委員長(2) 教育委員会への答申についてについて協議に入りたい。
 ・ いよいよ14日は答申である。事務局より予定について説明をお願いする。
- 事務局説明 <教育委員会への答申について>
 企画課長 ・ 13時から委員会室で答申、その後、委員長に記者室へ移動して頂き、13時半より市政担当記者へ内容説明をお願いする。
 ・ 13時からの答申には多くの委員のご出席をお願いしたい。人数を確認したいので、検討委員会終了後事務局へ連絡願いたい。
 ・ 大変なスケジュールとなるが、よろしく願いたい。
- 明石委員長(3) その他に入りたい。答申を受けて、教育委員会が来年度以降、どのように進めていくか、平成19年度以降の取り組みについて、事務局から説明願いたい。
- 事務局説明 <今後のスケジュールについて>
 企画課長 ・ 学校適正配置の今後のスケジュールなどについて説明する。
 ・ 教育委員会では、答申に示された具体的な取り組みの案を検討して、改めて学校

適正配置の基本方針を策定する。

- ・19年度早々に教育委員会内に検討機関を設置、「学校適正配置の基本方針」を策定し、発表する。
 - ・きめ細かくお知らせし、地域への説明会を行っていききたい。
 - ・「地元代表の協議会（仮称）」など設置しながら、合意形成目指して進めていく。
 - ・広範囲であるため、一気に進めるのではなく、重要度の高い地域から、順次計画的に進めていく必要があると考えている。
- 明石委員長 ・教育委員の力強い取り組みをお願いしたい。

明石委員長(4)これまでご熱心に審議頂いた、各委員の皆様より、一言ずつ、ご感想を頂き、第2次検討委員会の締めとさせて頂く。

- ・座席順に、貞廣委員からお願いする。

<各検討委員からの感想>

- 貞廣委員 ・国の現行の教員配置基準がある限り、学校適正配置が必要になってくる。この教員配置基準の中で、少しでもよい教育環境をめざしていくしかないと思う。
- 秋元委員 ・今回の答申は、現行のシステムの中で考えた最善の学校適正配置であったと思う。
- 大和久委員 ・これは、この学校適正配置がどのように進められていくのか、市民の立場でホームページなどから情報を得て見守っていききたい。
- 小川委員 ・適正配置の対象となる学校はどうなるのか関心が高い。
- 田原委員 ・子どもたちの学校づくりへの参画がポイント。統合までの移行期間に学校への愛着が持てるようにしていくことが大切である。
- 升川委員 ・行政区の境界にいる子どもへの柔軟な対応をお願いしたい。
- 吉岡委員 ・理想的な地域の枠組みをつくったが、実際に進めるにあたっては、地域の声をよく聞きながら進めて頂きたい。
- 長岡委員 ・子どもと先生方が安心して教育活動に取り組める場をつくるのが大切だと感じた。
- 長井委員 ・教員の定数法の問題が大きい。
- 豊田委員 ・教員へも答申の考え方をきちんと広めていきたい。
- 長岡委員 ・今までの統合は単なる数あわせで、磯辺地区の一部が真砂地区に入れられていることなど配慮せず、時代が変わっていくのに柔軟に対応していなかった。
- 長岡委員 ・この答申によって、日本のモデルとなるような千葉市の教育改革を望みたい。千葉市に見習えと言われるようにしなくてはならない。
- 長岡委員 ・一年生が、わずか1年たらずで立派に成長した姿を見ると教育の力はすごいと感じる。
- 長岡委員 ・子どもに社会できちんと生活できる社会性を身に付けさせるのは、家庭だけでは限界がある。子どもは家庭、社会のことを学校に持ち込んでくる。学校は子どもの気持ちによりそった対応が求められる。
- 長岡委員 ・保育士と触れ合って育った子どもが、今、保育士を目指している。学校の先生にも、ぜひゆとりをもって取り組んで頂き、子どもと触れ合う時間を多くしてやらなければいけないと強く感じる。
- 長岡委員 ・地元の卒業式で、子どもに夢を持たせる話をするよう心がけている。この検討委員会で話し合った内容を地元の学校でも活かしていきたい。
- 豊田委員 ・答申には大規模校の解消についてまとめられている。大規模校の解消については長年取り組んできたが、あきらめないで続けてよかったと感じている。
- 豊田委員 ・挨拶運動などに関わっている。子どもが笑顔で挨拶するようになるなど、1年間で変化することがわかった。
- 豊田委員 ・荒れた学校は大変だと思うが、事件が起こったら、隠さないで子どもに話し合わせ、子どもたちに考えさせることが大切。
- 豊田委員 ・学校の先生になる条件は、子どもが好きであることでなくてはならない。

- 佐藤委員
- ・答申が行われ、教育委員会で方針が策定され、19年度～20年度で各地元への説明がなされると思う。通学区域の調整などで町内自治会によっては、通学区域が分かれるところが出るかもしれないが、基本方針をよく説明すれば柔軟に対応すると思う。
 - ・中央区を見ると新宿小学校・蘇我中学校が調整の対象になると思うが、できれば中央区連協の理事会で説明をして理解を深めたらよいと思う。
 - ・子どもルーム（学童保育）については、福祉協議会で委託され運営されており、福祉行政として位置づけされているが義務教育の一貫として教育委員会で所管された方がよいと思う。
- 安達委員
- ・イタリアの学校と日本の学校ではかなり違いがある。イタリアはディベート学習に力を入れている。
 - ・若松台の地域は小規模化が進んでおり、将来的には統合が必要となろう。子どもたちの自我形成にはある程度の学校規模が必要と思う。
- 鵜飼委員
- ・答申には例として学校名が示されるが、決定したという形で市民に伝わるのではないかという不安がある。一つのモデルとして示したことを、きちんと市民に話をしていくことが必要で、十分説明して頂きたい。
 - ・学校適正配置を進める中で、確保できた費用は、教育に関する費用に充当していただきたい。公立学校はどんな子どもも受け入れ、自立できるよう教育していかなければならない。そのための、人的な支援が必要とされている。
- 市川副委員長
- ・答申の内容を学校現場にも活かしていきたい。
 - ・クラス替えのできない学校では、いろいろな面で課題がある。「子どもたちにとって」をメインに、子どもたちが統合してよかったと思えるよう進めていければよいと考えている。
- 明石委員長
- ・現行の教員配置基準の中では、ベストの学校適正配置の答申がまとまった。
 - ・事務局はコンパスで距離を測り、実際に現地を歩いて資料を整理してくれた。
 - ・学校名が例として出ているので、広報ではいつどのように進めるのかきちんと説明するようにしたい。
 - ・1年間で方針を策定し、2年間くらいかけて、地域において十分ディスカッションをすれば理解が得られると考える。
 - ・答申を確定し、最終の第6回の検討委員会を終了とする。
 - ・事務局に進行をお返す。

9 閉会

- 事務局
- ・ここで、教育委員会を代表し、教育総務部長大野湊より、御礼の言葉を申し上げます。
- 大野教育総務部長
- ・熱心な討議を頂き、本日の会議で答申がまとまり、改めて御礼申し上げます。
 - ・今後、学校適正配置推進のための委員会を設置するなどして、計画的に取り組んで参りたい。
 - ・引き続きご支援をお願いしたい。
- 事務局
- ・ここで審議がすべて終了した。閉会とする。
 - ・14日の答申はよろしくお願ひしたい。最後にもう一度感謝申し上げ、審議を終了する。